

Portable Communication Manager ユーザ・マニュアル

本セクションでは以下を説明します：

- JobGen Plus の通信ユーティリティ
- JobGen Plus からポータブルターミナルへファイルを送信する方法
- ポータブルターミナルから JobGen Plus へデータを受信する方法

2002年3月5日、日本語版初版
2005年12月21日改訂

目 次

PTCOMM マネージャ	3
通信パラメータ	3
ファイル転送	6
メニュー	7
ファイルメニュー	7
転送メニュー	8
バッチ転送:	10
バッチ転送定義	11
表示メニュー	12
ヘルプメニュー	13
ヘルプトピックス:.....	13
バッチ転送	14
バッチファイルのフォーマット:	15

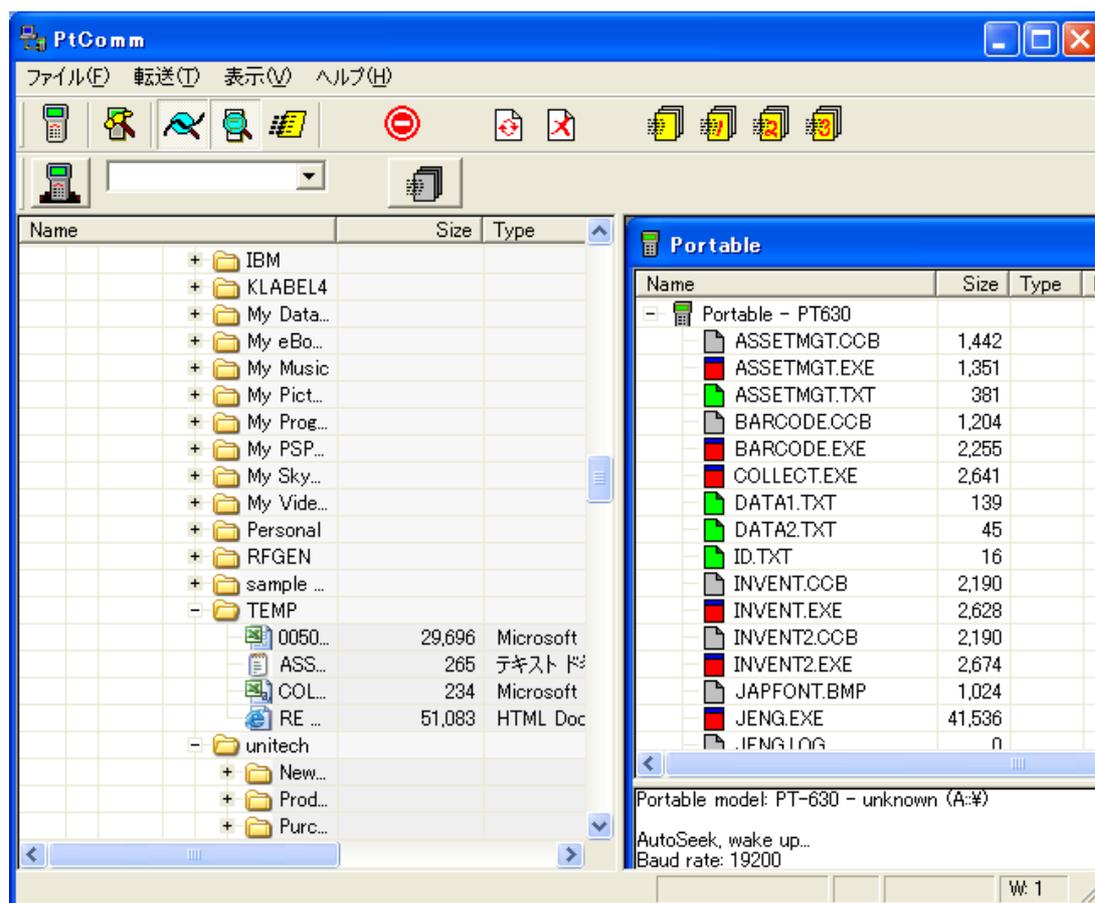
PTComm マネージャ 通信パラメータ

JobGen Plus は PTComm マネージャ、ポータブルターミナルとホスト PC をリンクするアプリケーションを含んでいます。PTComm マネージャは皆様のポータブルターミナルとホスト PC 間を簡単に、そして高速にデータとファイルの交換を行うことを可能にします。

ツールバーの PTComm マネージャ・アイコンをクリックするか、あるいはメニューから ツール > PTComm マネージャを選択することによって、JobGen Plus から PTComm マネージャを起動します。

Windows から PTComm マネージャを起動するために、スタート > プログラム > JGPlus5 メニューから PTComm Manager を選択します。

PTComm マネージャのメインスクリーンを以下に示します：



ホスト PC からポータブルターミナルへのファイル転送のプロセスは **ダウンロード**と呼ばれています。反対に、ポータブルターミナルからホスト PC へのファイル転送は **アップロード**と呼ばれます。

ホスト PC とポータブルターミナル間のファイル転送方法:

1. ポータブルターミナルの RS-232 ポートを PC のシリアル通信ポートに接続し、ポータブルターミナルの電源を入れ、そして以下のようにポータブルターミナルの通信パラメータをセットします:

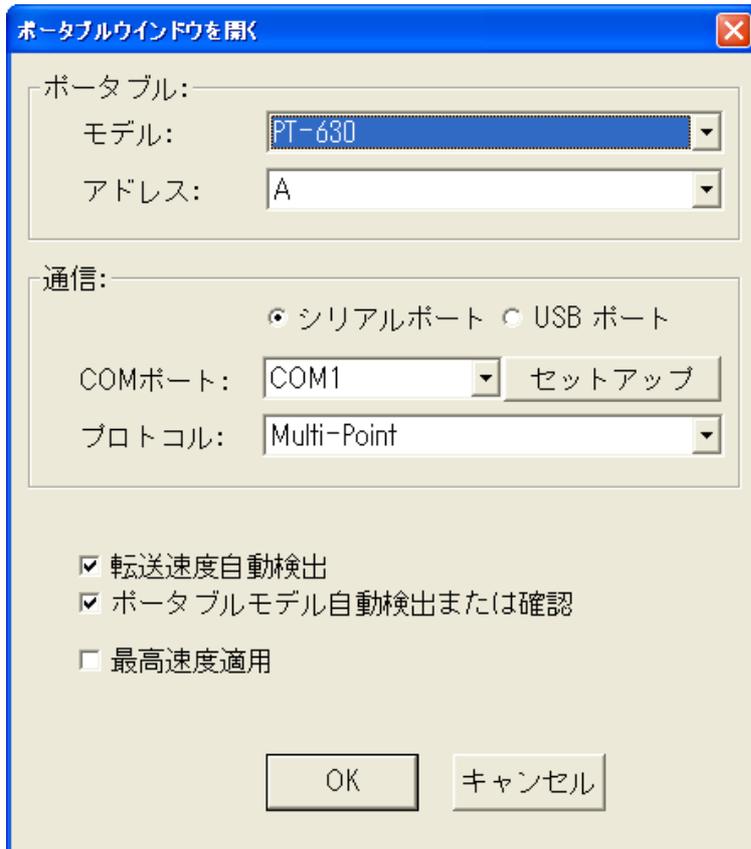
管理者モードに入り (電源を切り、CMD キーと左矢印キーを押しながら電源を入れ、そして 1.SUPERVISOR を選択します。パスワードの入力が求められます。パスワードの標準値は各モデル名の数字部分です。)、1.DEV を選択、そして 2.SERIAL を選択します。以下を確認して下さい:

- LENGTH 8
- PARITY NONE
- STOP BITS 1
- FLOW CONTROL NONE
- PROTOCOL MULTI (マルチポイント)
- ADDRESS A から Z または 0 から 6 (このアドレスを覚えておいて下さい)

ノート: 次の設定に進むために ENTER キーを押すか、あるいは現在の設定を変更するために右矢印キーを押します。

アドレスは A から Y、または 0 から 6 とすることができます。PT Comm マネージャはポータブルウインドウを開くときにポータブルターミナルのアドレスと同じものをセットしなければなりません。

2. PT Comm マネージャのアプリケーションを起動します。
3. PT Comm マネージャの通信パラメータをセットします。転送メニューの下のポータブル接続を選択して下さい。以下のダイアログ・ボックスが現れます。



ポータブルターミナルのモデル名とアドレスを選択します。

Address には常に正しいポータブルターミナルのアドレスを指定して下さい。マルチポイントプロトコルはその機能のためにポータブルアドレスを必要とします。ポータブルターミナルのアドレスを知るには、ポータブルターミナルの管理者モードに入り、1. DEV を選択し、2. SERIAL を選択して下さい。通信設定 (COM SETUP) のすべてをスクロールするために Enter キーを使用して下さい。ポータブルアドレスを表示します。左または右矢印キーを使用してここでポータブルアドレスを変更して下さい。終了後、メインの入力スクリーンになるまで Esc を押して下さい。

ポータブルターミナルを接続している COM ポートまたは USB ポートを選択します。COM ポートのプロパティは転送速度自動検出をチェックすると自動的にセットされます。

4. OK をクリックするとポータブルターミナルのウィンドウを開きます。

この段階で、PT Comm マネージャはポータブルターミナルと通信を確立し、ツリー状にポータブルターミナルのファイルディレクトリを表示します。

転送速度自動検出: 転送速度の設定が PC とポータブルターミナルで異なる場合にポータブルターミナルの転送速度設定を自動的に検出することを PTCComm に指示します。長さ(データビット)、ストップビット、およびパリティ等の他の COM ポート設定も同じでなければならないことにご注意下さい。そうでなければ、PC とポータブルターミナルは互いに了解することができません。

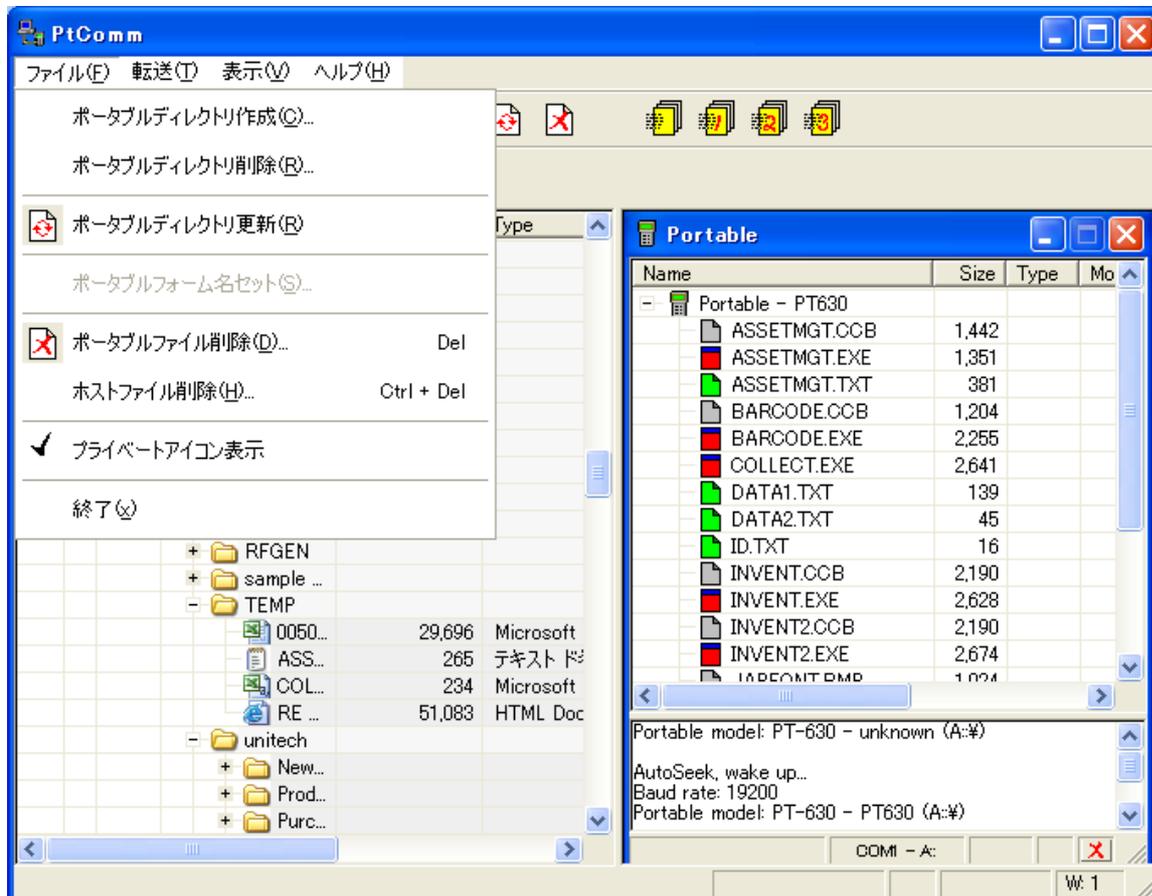
ポータブルモデル自動検出または確認: ポータブルターミナルのモデルを自動的に検出もしくは確認することを PTCComm に知らせます。

すべての通信設定が正しいにも関わらず、ポータブルターミナルの接続で問題がある場合は、以下のウォームスタートを行って下さい: 電源を切る、そして CMD と左矢印キーの両方を押しながら電源を入れ、そして 2.WARM START を選択します(警告! 3.COLD START の選択は RAM ディスクのすべてのファイルを消去します!)。そして再度接続して下さい。

ファイル転送

PC とポータブルターミナル間のファイル転送は簡単です。ユーザはコピーするファイル上を指してクリックし (ボタンを押したまま)、ファイルを転送先へドラッグし、そしてマウスボタンを離すことによってドロップします。ユーザは同様にファイルを指して、ドラッグしドロップするプロセスによってポータブルからホスト PC へ簡単にファイルをコピー (アップロード) することができます。

メニュー ファイルメニュー



ポータブルディレクトリ作成:

ポータブルディレクトリ削除:

ポータブルターミナルでファイルディレクトリを作成または削除します。ディレクトリ機能はポータブルターミナルのモデル PT-800 によってのみサポートされています。他のポータブルターミナルは一つのルートディレクトリのみを持っています。

ポータブルディレクトリ更新:

現在のポータブルターミナルのディレクトリのファイルリストを検索します。この機能はポータブルターミナルのファイル長等のようなファイル情報を更新するためにも使用されます。閉じるためにポータブルウィンドウの最初の行のポータブル項目をダブルクリックし、更新するために再度ダブルクリックして下さい。あるいは、ツールバーのポータブルディレクトリ更新アイコンを単にクリックして下さい。

ポータブルフォーム名セット:

PT-805 と PT-815 の両者は通信にマルチプロトコルを使用していないので、PTComm はこれらのポータブルターミナルからファイルディレクトリ情報にアクセスすることはできません。したがって、これらのモデルの、ポータブルウインドウのファイルエントリは PTComm からマニュアル入力を必要とします。PTComm が JobGen Pro のジョブ(PT-805 と PT-815 に対してのみ)をポータブルターミナルにダウンロードする場合、ジョブからフォーム情報を検索し、そしてリストにこれらを自動的に追加します。

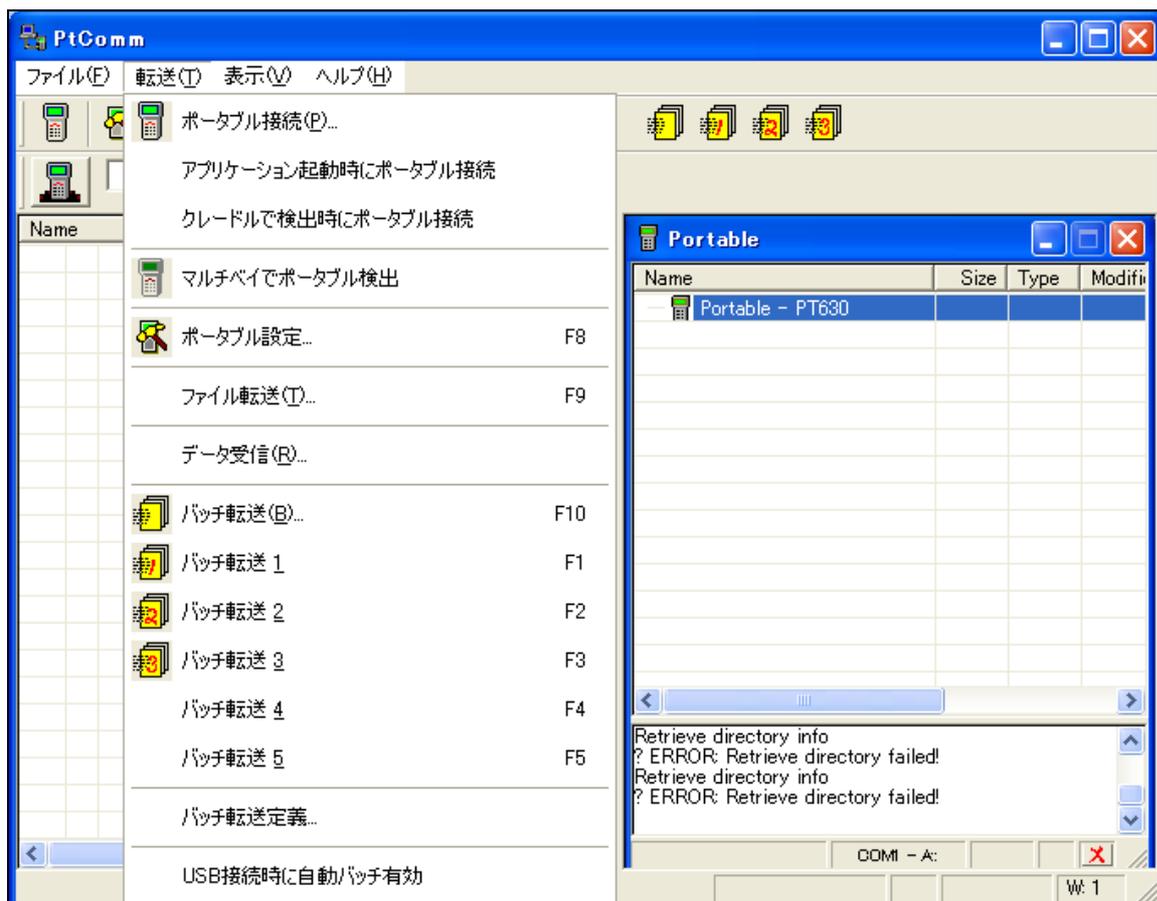
ポータブルファイル削除:

ポータブルウインドウで複数のファイルを選択し、そしてこれらを一度に削除します。

ホストファイル削除:

ホスト PC からファイルを削除します。

転送メニュー



ポータブル接続:

ポータブルターミナルのウインドウを開きます。

アプリケーション起動時にポータブル接続:

PTComm マネージャプログラム起動後直ちにあらかじめ設定されたポータブルターミナルを自動的に接続します。

クレードルで検出時にポータブル接続:

PC にクレードルが接続されている場合、クレードルにポータブルターミナルが載せられるとすぐにポータブルターミナルを接続します。(現在はサポートされていません。)

マルチベイでポータブル検出:

マルチベイクレードルに載せられたポータブルターミナルを検出します。(現在はサポートされていません。)

ポータブル設定:

ポータブルターミナルの転送速度、日付と時刻をセットします。この機能はポータブルターミナル側とホスト PC 側の転送速度を変更します。通信の速度を変更するためにこの機能を使用します。

ポータブルターミナルに対して日付と時刻をセットします。

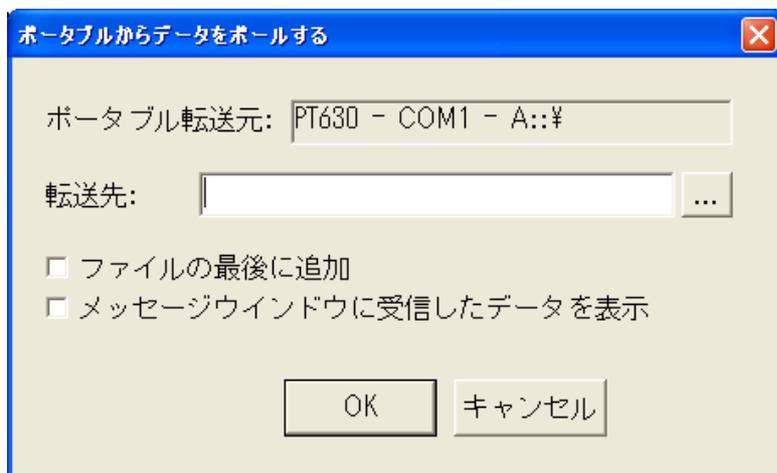


ファイル転送:

PC とポータブルウインドウ間のファイルをドラッグしてドロップした後で、PTComm はファイル転送を確認するためにダイアログウインドウを開きます。この時点で、保存先のファイル名を変更することができます。

データ受信:

この機能はマルチポイントプロトコルを持つポータブルターミナルから送られるデータ検索のために使用されます。データ受信機能を開始した後で、PTComm はポーリングモードのままで、これはポータブルターミナルの COM ポートバッファにデータの準備ができたかどうかをポータブルターミナルに聞くためにポーリングコマンドを出し続けます。データがある場合、PTComm はポータブルターミナルからデータを得るためにデータ検索コマンドを送信します。このプロセスはポーリングを停止するためにポータブルウインドウの右下角の停止ボタンをクリックするまで繰り返されます。



バッチ転送:

バッチコマンド・ファイルを選択してこのバッチファイルを実行します。バッチファイルのフォーマットは以下で説明されています。

バッチ転送 1 から 5:

バッチ転送定義で定義されたバッチファイルを実行します。5つのクイックアクセスアイコンがツールバーにあります。

指定したファイルを頻繁に転送する場合、自分で簡単に行うためにバッチファイルを作成します (毎回、ホスト PC ウインドウでファイルフォルダを開き、ファイルを探し、選択し、そしてポータブルウインドウにドラッグアンドドロップする必要はありません)。バッチ転送アイコンをクリックするだけでジョブがスタートします。

バッチ転送定義

バッチボタン定義

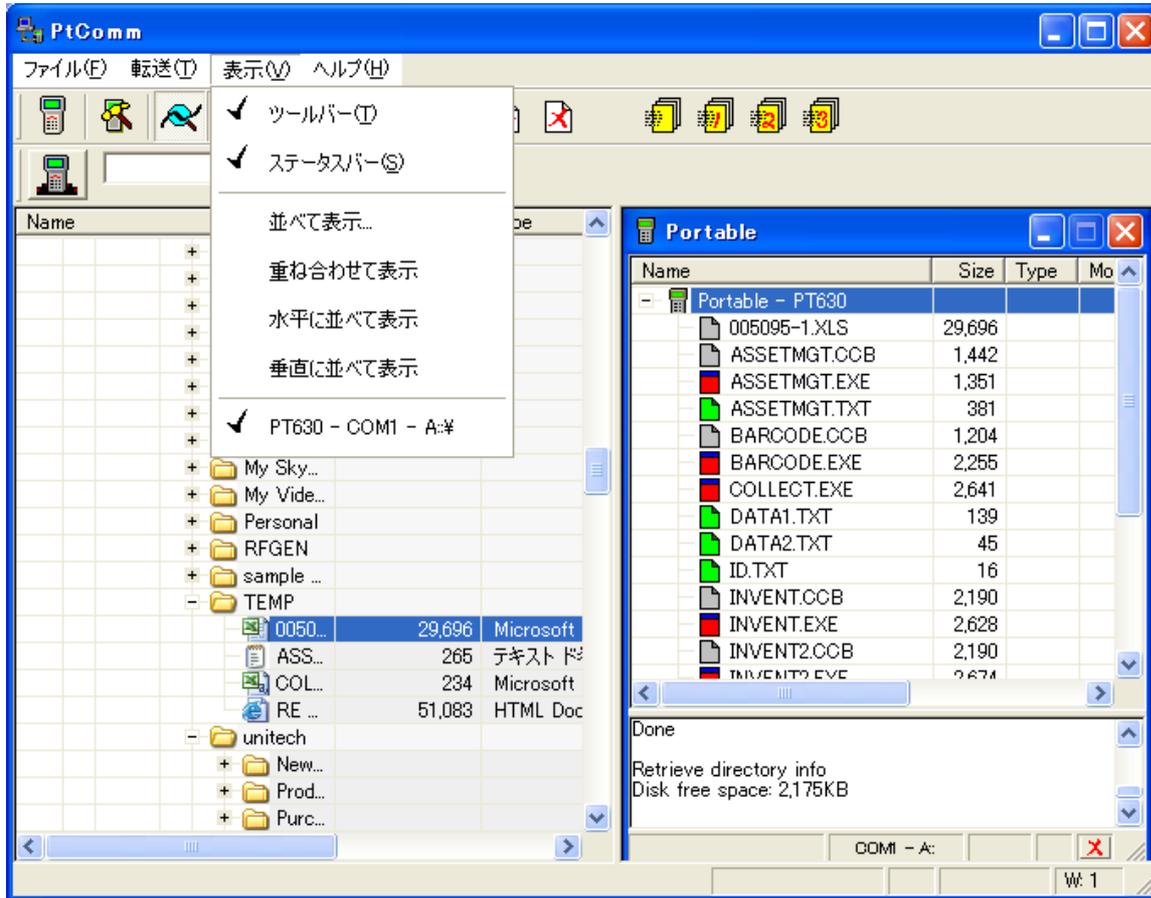
ボタン 1	?	削除 1
ボタン 2	?	削除 2
ボタン 3	?	削除 3
ボタン 4	?	削除 4
ボタン 5	?	削除 5

バッチ実行前に確認

終了

バッチ転送のためにバッチ転送するファイル名を事前に定義します。ファイル名を追加するためにボタン 1 から 5 をクリックして下さい。ファイル名を削除するには 削除 1 から 5 ボタンをクリックして下さい。

表示メニュー



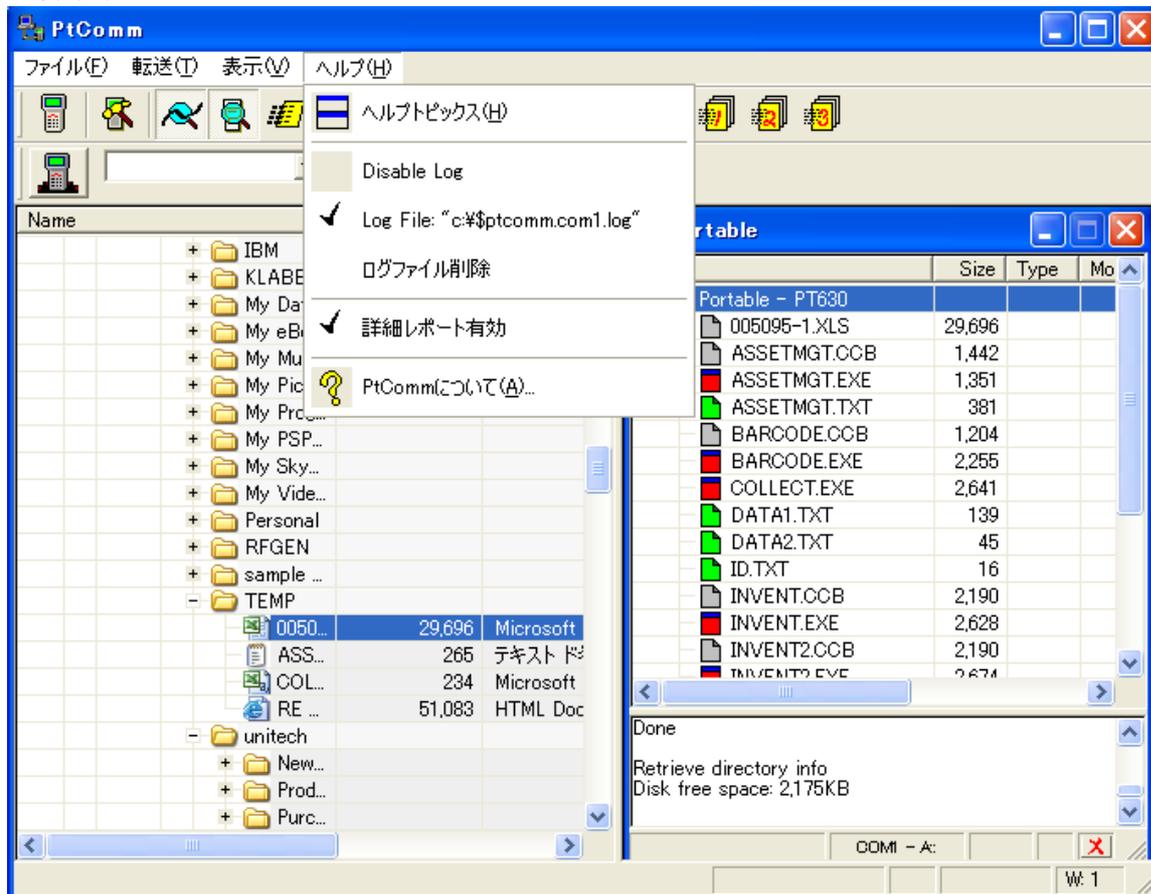
ツールバー

ツールバーコマンドはツールバーを表示もしくは隠すことができます。ツールバーは主要なメニューに簡単にアクセスすることができます。

ステータスバー

ステータスバーはアクティブなウィンドウまたは選択したコマンドについての情報を表示します。ステータスバーを表示または隠すためステータスバーコマンドを出します。

ヘルプメニュー



ヘルプトピックス:

ヘルプの内容を表示します。

Enable/Disable Log

ログ機能を有効または無効にします。有効な場合、すべての動作状況と通信データがログファイルに記録されます。ログファイル名はログファイルメニュー選択に表示されます。ログファイルを消すにはログファイルメニュー項目をクリックして下さい。

PT Comm について

PT Comm については、ソフトウェアバージョン番号等の PTComm マネージャアプリケーションプログラムについての情報を提供します。

バッチ転送

PTComm マネージャはバッチモードで実行することができます。これは PTComm マネージャが他のアプリケーション・プログラム中から呼び出されることができることを意味しています。4つの異なるコマンド・フォーマットがあります。

```
ptcomm3 [/exit] /comport:{1..8} /ptaddr:{A..Z|0..6} /batch:batchfilename
```

```
ptcomm3 [/exit] /comport:{1..8} /ptaddr: {A..Z|0..6} /download:filename1  
[,filename2, ...]
```

```
ptcomm3 [/exit] /comport:{1..8} /ptaddr: {A..Z|0..6} /destdir:foldername  
/upload:filename1 [,filename2, ...]
```

```
ptcomm3 /close
```

ここで、

- **/exit** はオプションです。そして、タスクが終了した後でアプリケーションを閉じるように PTComm マネージャに知らせます。
- **/comport:** COM ポート番号を指定、COM1 から COM8。
- **/close** すでにある PTComm マネージャを閉じます。
- **/ptaddr:** ポータブルターミナルのアドレスを指定: A から Z、または 0 から 6。
- **/batch:** バッチファイル名を指定。
- **/destdir:** アップロードがファイルを保存する相手先フォルダ名を指定します。
- **/download:** この指示は最後でなければなりません。そしてホスト PC からポータブルターミナルにダウンロードする一つまたはコンマで区切った複数のファイル名を指定します。
- **/upload:** この指示は最後でなければなりません。そしてポータブルターミナルからホスト PC にダウンロードする一つまたはコンマで区切った複数のファイル名を指定します。

注意: これらのパラメータ指示の各々は、少なくとも一つのスペース文字で区切る必要があります。スペース文字を含む長いファイル名は引用符の中に含まれなければなりません。

PTComm マネージャの実行形式ファイルの場所は **PTCommBatch** セクションの **AppPath** キーの、**c:\\$jgp.sts** ファイルにあります。

バッチ処理が終わったら、PTComm マネージャは **\$JGP_EVENTNAME_BATCHDONE** があれば、イベントオブジェクトをセットします。このイベントオブジェクトがセットされることを待つことによって、親プログラムは PTComm マネージャ中のバッチ処理を持つタスクと同期することができます。

PTComm マネージャはバッチ処理の成功または失敗を示すためにステータスファイル **c:\\$jgp.sts** 中の **PTCommBatch** セクションに **SUCCESS** または **FAIL** または **empty** の **BatchDone** のキー値をセットします。

```
[PTCommBatch]
AppPath=full-path-name-of-PTCOMM.EXE
BatchDone=SUCCESS
```

ステータスファイルのチェックの代わりに、同じ情報を見つけるためにレジストリをチェックして下さい:

```
[HKEY_CURRENT_USER\ Software\ Unitech America Inc.\ PTComm
Manager\ Settings]
```

キーの下で、

実行可能な場所については、**APPPATH** の値をチェックして下さい。

バッチステータスについては **BATCHDONE** の値をチェックし、1 はバッチの完了を示します。

バッチステータスについては **BATCHERROR** の値をチェックし、1 はバッチ処理のエラーを示します。

バッチファイルのフォーマット:

指示: パラメータ

以下の行の各々は指示とパラメータを含んでいます。

;	コメント
ECHO:	テキスト
ADDRESS:	ポータブルターミナルのアドレス
PORTABLE:	ポータブルターミナルのモデル
FASTSPEED:	yes または no
DIRECTION:	ダウンロードまたはアップロード
DESTDIR:	保存先のフォルダ名
DELETE:	削除するファイル名
SETTIME	
FILE:	転送するファイル名

FILE: 転送するファイル名<>新しいファイル名
FILE: 転送するファイル名<>新しいファイル名// コメント
FILE(options): 転送するファイル名
FILE(options): 転送するファイル名<>新しいファイル名
FILE(options): 転送するファイル名<>新しいファイル名// コメント

ここで、

- ECHO はウインドウにテキストを表示します。
- ADDRESS は使用しません。注意: PTComm マネージャはコマンドラインからポータブルターミナルのアドレスを取り込みます。
- PORTABLE は使用しません。
- FASTSPEED は可能なら、速い通信速度を有効にします。
- DIRECTION ダウンロードまたはアップロードのいずれかを指定します。
- DESTDIR はホスト PC 中にファイルを保存するための格納先フォルダを指定します。
- DELETE はポータブルターミナルの指定したファイルを削除します。
- SETTIME はポータブルターミナルの時計をホスト PC の現在時刻に合わせます。
- FILE は転送するファイルを指定します。オプションは以下の通りです:
 - **OVERWRITE** は確認無しに既存のファイルを上書きします。
 - **UPDATE** ファイル長が異なった場合にのみダウンロードします。
 - **CHECKROM** は ROM ディスク中のファイルに対してチェックします。
 - **XMODEM** はファイル転送のために XMODEM プロトコルを指定します。

ポータブルターミナルのファイル名の付け方:

ポータブルアドレス::filename

PTComm マネージャでリモートのポータブルデバイスを指定するためにダブル・コロン :: を使用します。例えば、 A::\data1.txt, A::\jeng.exe 。

サンプル・バッチファイル (これはジョブをダウンロードするために使用する JobGen Plus の代表的なバッチファイルです。):

```
ECHO: Download job collect for PT-600  
ADDRESS: A  
PORTABLE: PT-600
```

DIRECTION: Download
FASTSPEED: yes
FILE(OVERWRITE): C:\JGPLUS5\SAMPLES\PT600\COLLECT.EXE //JOB'S
EXECUTION FILE
FILE(UPDATE,CHECKROM,OVERWRITE): C:\JGPLUS5\JCC\JE600.EXE <>
JENG.EXE //JOB ENGINE

サンプル・バッチファイル これはジョブをアップロードするために使用する JobGen Plus の代表的なバッチファイルです。):

ECHO: Upload data file data1.txt of job collect
ADDRESS: A
PORTABLE: PT-600
DIRECTION: Upload
FASTSPEED: yes
FILE: data1.txt <> C:\JGPLUS5\SAMPLES\PT600\data1.txt

サンプル・バッチファイル:

DIRECTION: Download
FILE: C:\JGPLUS5\SAMPLES\PT600\TABLE.DAT

サンプル・バッチファイル:

DIRECTION: Upload
DESTDIR: C:\JGPLUS5\SAMPLES\PT600
FILE: data1.txt

サンプル・バッチファイル:

DELETE: data1.txt